opusdei.org

黙想:教会の母聖マ リア (聖霊降臨後の 月曜日)

黙想のテーマ:「教会における聖母マリアの母としての存在」「カルワリオの聖母」 「教会は聖母マリアのように、すべての人をキリストへと導く」

教会における聖母マリアの母として の存在

カルワリオの聖母

教会は聖母マリアのように、すべて の人をキリストへと導く 使徒言行録には、イエスの昇天の 後、使徒たちが高間に集まっていた 様子が描かれています。「彼らは 皆、婦人たちやイエスの母マリア、 またイエスの兄弟たちと心を合わせ て熱心に祈っていた|(使徒言行録1・ 14)。伝承によれば、この場面は、教 会における聖母マリアの、母として の役割を示すものとされてきまし た。マリアはその身をもって、救い の歴史における二つの重大な節目 ――すなわち、みことばの受肉と教 会の誕生――を結びつけています。 「このように、母としてキリストの 秘義に介在したマリアは、…教会の 秘義においても母として現存するこ とになりました | 111。

母親の人生は、子どもが胎内に宿ったその時から、すでにその子を中心に動き始めます。母親には、神から託された賜物である子どもを見守る

責任があります。生まれたばかりの 乳児には、引き続き母親の保護が大 きく求められます。そして、子ども が成長するにつれて、母親は、その 子が人生の最初の一歩を踏み出すの を助けます。福音書には、聖母マリ アがイエスに注いだ、深い愛情のい くつかが記されています。使徒言行 録では、マリアが使徒たちや初期の キリスト者たちを見守る姿が描かれ ており、初期の教会に対する同様の 思いやりがうかがえます。それは、 迫害や困難の中で、教会がまさに誕 生しようとしていた〈胎動〉の時期 であり、彼らがとりわけマリアの助 けを必要としていたときでした。 |マリアは、歩み出したばかりのキ リスト教共同体の謙遜でつつましい 代表者でもあります。マリアは初期 のキリスト教共同体の霊的中心で す。なぜなら、マリアが弟子たちの ただ中にいることそのものが、主イ エスの生き生きとした記念であり、

イエスの霊が与えられることの保証 だからです」[2]。

今日においても、聖母マリアは、教 会の中の一人ひとりの子どもたちを 見守り続けておられます。私たち が、同じ母を持つ民の一員であるこ とに気づくとき、初期のキリスト者 たちのように、教会のすべての信徒 と心を一つにすることができるよう になるでしょう。聖ホセマリアはこ う語っています。「初代教会がそう であったように、私たちの母である 聖なる教会において、皆が心を一つ にするよう、神にお願いして欲し い。それは『信じた人々の群れは心 も思いも一つにしていた』という聖 書の言葉が世の終わりまで実現し続 けるためである | [3]。

主が十字架上からヨハネに話しかけられたとき、それは、ご自身の人生

で最も苦しい時にさえ、手放したなかの、ご自分の母親ので記されたののでする弟子に託されたが、支に託されたが、支に託されたが、支にいるがある。主は神であられまり、したがではいるがある。ではいるがはいのもながはい。あなたの母です」(ヨハネ19・26-27)。

 あるマリアの信仰に照らしていただいるでしょうか。それとも、マリアを、わたしたちとはかけ離れる方、まったく違う方と考えていたちに、おたしたちに、神は常に、わたしたちにとがはないことだけを望まれまでにを対したはではないでしょうか」[4]。

イエスはヨハネに向けた言葉を通し て、聖母マリアを自らの人生に迎え 入れるよう、すべてのキリスト者を 招いておられます。私たちが信頼を もってマリアに近づくことを、主は 望んでおられるのです。「神のみ前 で有力者である聖母は、私たちの望 むものをすべて手に入れてくださ る。母として何でもかなえてやろう と思っておられる。また母として、 私たちの弱さを知り尽くしているが ゆえ、励ましを与え、弁護し、道を 容易にすることができる。もうどう にも仕方がないと思えるときでさえ

も、ちゃんと解決策を用意してくだ さるのです | 国。

マリアは、いとこのエリザベトが身 ごもっていると聞くと、すぐに立ち 上がり、「急いで山里に向かい、ユ ダの町に行った。そして、ザカリア の家に入ってエリサベトに挨拶し た」(ルカ1・39-40)。このときマ リアは、物質的な面でも助けになっ たことでしょう。しかし何よりも、 イエスご自身、そしてイエスによっ てもたらされる満ち溢れる喜びを運 んだのです。エリサベトもザカリア も、自分たちには不可能だと思って いた妊娠によって、大きな喜びに包 まれていたに違いありません。しか し、真に完全な喜び――すなわち、 イエスと聖霊との出会いから生まれ る喜び――を現実のものとしたの は、まさにマリアだったのです。

「聖母は、わたしたちにも、わたし たちすべてにも、イエスという偉大 なたまものをもたらそうと望んでい ます。聖母は、イエスとともに、そ の愛と平和と喜びをわたしたちにも たらします。教会もマリアと同じで す。むしろ教会は、すべての人にキ リストとその福音をもたらすよう派 遣されています | 「61。これこそが、 教会とすべてのキリスト者に託され た使命です。すなわち、マリアがエ リサベトのもとにイエスの愛を運ん だように、すべての人にイエスの愛 を届けることです。教会は、真の幸 福が成功や富、快楽にあるのではな く、キリストを迎え入れることにあ るのだということを、すべての人に 思い起こさせます。私たちに最も深 い喜びをもたらすことができるの は、キリストおひとりなのです。

私たちが聖母マリアに倣おうと努めることを通して、イエスは恵みのうちに、私たちの周りの人々の魂の中

にお生まれになることができるのです。聖ホセマリアをまねるなりです。「マリアをまねるな母の霊的なけったができます。〈大力で聖母の霊的な母のできます。〈大力にあずかることができます。〈少なでは、信者としている。「はないでは、信者というというでは、「はないです」では、私からにないのです」では、私ができるです。「できることができる。」には、これができる。「はないできる。」には、これができる。「はないできる。」には、これができます。「はいいできる。」には、これができます。「はいいできる。」には、これができます。「はいいできる。」には、これができます。「はいいできる。」には、これができます。「はいいいできる。」には、これができます。「はいいいできる。」には、これができます。「はいいいできる。」には、これができます。「はいいいできる。」には、これができる。これができる。これができる。これができる。これができる。これができる。これができる。これができる。これができる。これができまればいいできます。これができる。こ

[1] 聖ヨハネ・パウロ二世『救い主の母』、24番。

[2] ベネディクト十六世、「アレルヤの祈り」でのことば、2010年5月9日。

[3] 聖ホセマリア『鍛』632番。

- [4] フランシスコ、一般謁見演説、 2013年10月23日。
- [5] 聖ホセマリア『神の朋友』292 番。
- [6] フランシスコ、一般謁見演説、 2013年10月23日。
- [7] 聖ホセマリア『神の朋友』281 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/kyoukai-no-haha/(2025/12/13)